

○坂元委員 おはようございます。次世代の党の坂元でございます。

まずは、先日視察に行かせていただきましたリニア中央新幹線についてお伺いをさせていただきます。

十二日水曜日に山梨県まで視察に行かせていただきました。委員長初め皆様に感謝を申し上げます。

視察に行かせていただきまして、私もリニアでの時速五百キロというものを体験させていただきました。私ももともと乗り物が好きでございますので、童心に返ったような気持ちで、楽しく体験をさせていただいたんですが、周りを見渡すと、ベテランの先生方も含めて、皆さん大変興奮をしておられたとお見受けしました。私は、これってすごく大事だと思いました。やはりリニアには夢があるなというふうに、実際に乗らせていただいて、私自身も思いました。

少し話が飛ぶんですけども、私は、アベノミクスに必要なのは、こういう夢というか、次の世代の日本というものを明確にイメージさせるようなビジョンがやはり足りなかったのではないかなと個人的には率直に思っております。そういう中で、やはりこのリニアというものを、国として、国交省として積極的に支援をしていくべきなんじゃないかなと、視察に行かせていただいて改めて感じました。

視察の中で、JRの説明で、もともと、リニアではなくて、新幹線が開業する際にも、当時の佐藤栄作首相が世銀の支援も求める中で、これは国家的なプロジェクトとしてやっていくんだということを、かなり強力にリーダーシップをとられたという話も伺いました。やはり、次の時代の日本というものをつくっていくためにもこのリニアというのは大変大きな役割を果たすのではないかなというふうに感じて、それに対して、国、国交省として積極的な支援を行っていくべきだというふうに思いました。

現状、JRの自己負担では、まずは二〇二七年、平成三十九年に名古屋まで、次いで二〇四五年、平成五十七年に大阪までという二段階方式が率直に言って限界ですという御見解でありました。

我々次世代の党は、世界最先端の技術開発など、未来に向けた投資を国家主導で推し進めていくために、日銀に百兆円規模の基金を設けるべきだということを提案、提言させていただいております。これ以上、見せかけの株価を上げるだけの金融緩和を行っていくよりは、こうした未来に向けての基金というものを、かなり画期的な提案ではありますけれども、行っていくべきではないかなというふうに提案をさせていただいております。

大臣にお伺いしたいのが、こうした基金という方法も含めて、国交省、国としてリニア中央新幹線を強力にバックアップしていくべきだというふうに考えておりますが、認識をお伺いしたいと思います。

○太田国務大臣 人が生きていく場合に、夢というお話がありましたが、私は、わくわく感というのが、食べ物にしましても、人に会うときにも、人間にとって幸せをつくるために大事なことだというふうに思っています。リニア新幹線がそうなるようにということについて、私は大事なプロジェクトであるという認識をしています。

東京―名古屋間が四十分、そして東京―大阪間を一時間強で結ぶ。三大都市圏の人の流れは劇的に変わって、国民生活や経済活動にも大きなインパクトがある上に、わくわく感というものもあるというふうに思います。

JR東海が、民間企業としての経営の自由や投資の自主性の確保を貫徹することが大原則との前提のもとで、全額自己負担で整備するとの意向を示したことを受けまして、そのときまでには随分経過があったわけではありますが、このことを受けまして建設の指示は行われた。二十三年の五月のことでございます。

JR東海は、このような前提に基づきまして、同社の財務や現場の工事の見通しを踏まえて、東京―名古屋間の開業目標を二〇二七年、大阪までを二〇四五年と設定しているわけではありますが、リニア中央新幹線の東京―大阪間の早期開業ということについても強い要望があることは十分承知しております。

日銀を活用したリニア中央新幹線への投資の御提案ということではありますが、この点はJR東海の考え方というものを踏まえなくてはならないと思っておりますが、これは金融政策の問題でもありまして、日銀において検討されるべきものであると思っております。

いずれにしましても、東京―大阪間の早期開業、そして二七年の東京―名古屋間、こうした予定を少しでも早くという国民の声を受けて、建設主体であるJR東海の考え方をよ

く踏まえながら対処していきたいと考えております。

○坂元委員 御丁寧な答弁をありがとうございました。

JR東海さんも非常に頑張ってくださいっていて、名古屋での乗り継ぎ、リニアから新幹線、新幹線からリニアへの乗り継ぎもかなりスムーズに行えるようにとといった工夫もされるというふうに伺っておりますが、やはり一本で大阪まで行けるのと行けないのでは全然効果が違って来るんだろうというふうに感じます。

当然、日銀の基金の話は金融政策の面もありますので、太田大臣からもぜひ政府の中で積極的に働きかけていただきますようお願いを申し上げます。